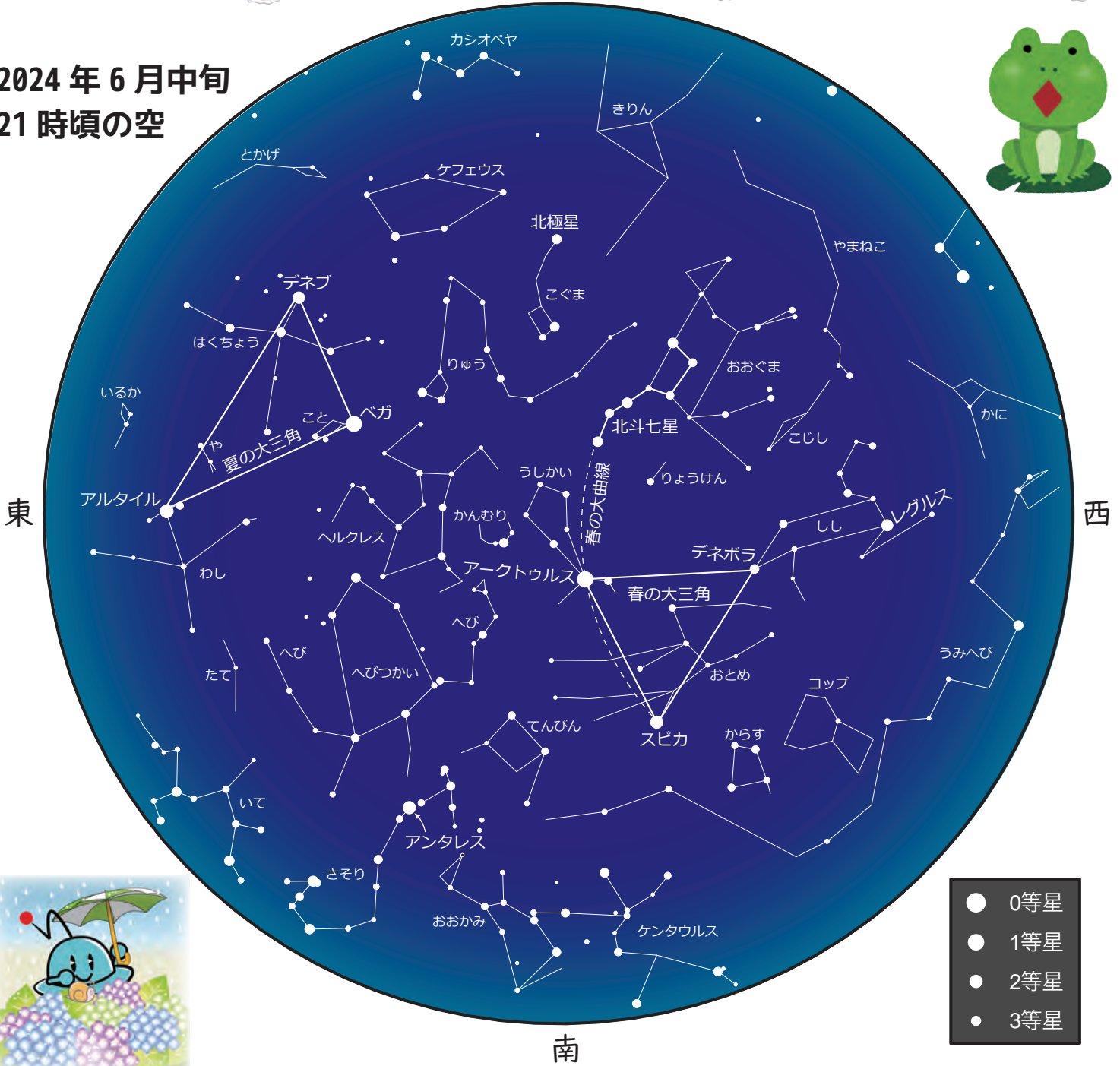


# 6月の星空案内

北

2024年6月中旬  
21時頃の空



6月は梅雨の影響でどうしても星空が縁遠くなりますが、空は初夏の装いになっています。天高い位置にはギリシャ神話の英雄「ヘルクレス座」が昇り、その南側にはギリシャ神話の名医アスクレピオスの姿が描かれた「へびつかい座」が見つかります。アスクレピオスは医学の象徴的存在でもあり、この星座の両脇に位置する「へび座」は、健康のシンボルとしても伝わっています。へびつかい座のさらに南側には小学年4生も学習する「さそり座」が昇り、1等星アンタレスの赤い輝きが目を惹くことでしょう。一方で、北寄りの空には「りゅう座」という星座があります。2～4等という暗い星からなる星座ですが、空の暗い地域では北極星を取り巻くように星が並んでいる様子を楽しむことができます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催！】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

# 6月の月の満ち欠けと惑星について



新月  
6日



上弦  
14日



満月  
22日



下弦  
29日

## 6月の天体観望会で月が見える日時は？



6/15(土)・・・20時、21時がおすすめ



水星：6月15日外合。月末頃、日没後西のごく低空で見える。【-0.6等】

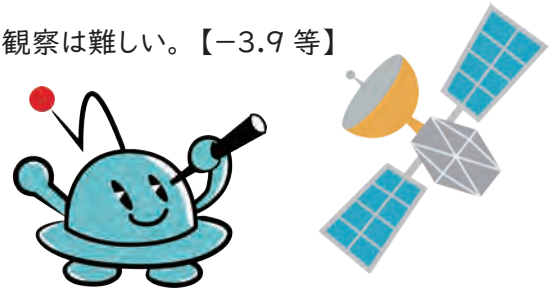
金星：6月5日外合。以降、宵の明星の状態になるが、まだ太陽に近く観察は難しい。【-3.9等】

火星：夜明け前の空の暗い時間帯に東の低空で見える【約1.0等】

木星：中旬過ぎから夜明け前、東のごく低空で見える。【約-2.0等】

土星：夜半過ぎ、東よりの空から昇ってくる。【約1.1等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ6/30の明るさ。



## おすすめの観察対象

### 【NGC6543 キャッツアイ星雲】



図1：四国最大の望遠鏡で撮影したキャッツアイ星雲  
(撮影：K. Imamura)

初夏の夜、北よりの空には「りゅう座」という星座が昇っています。この星座にはNGC6543という星雲があり、天文愛好家の間ではキャッツアイ星雲という愛称で親しまれています。当館の望遠鏡で観察すると、青みがかかった星雲の姿が見え、宇宙の神秘を感じることができます。星雲の中央には寿命が尽きかけの恒星があり、この星から大量のガスが宇宙空間にじわじわと放出され、キャッツアイ星雲を形成していると考えられています。なお太陽もいずれは宇宙にガスを放出しながら、このような最期を迎えると言われています。

## イチオシ天体写真

### 【アンタレス付近の星雲・星団】

6月に入ると南東よりの空からさそり座が昇り、1等星アンタレスの輝きが目に止まります。この星の周囲には図2のように数多くの色とりどりの星雲、さらにM4などの球状星団も分布しており、とても賑やかな領域になっています。望遠鏡で星雲のカラフルな輝きを見ることは難しいですが、天体写真家の間では人気の撮影対象となってい

ます。なお青色系の星雲(IC4604など)は反射星雲とも言い、近くの星の光をガスや塵が反射(又は散乱)することで輝いています。一方で赤色系(Sh2-9など)の星雲は輝線星雲とも言い、近くの高温の星の影響を受け、ガス(水素)がたいていが発光しています。

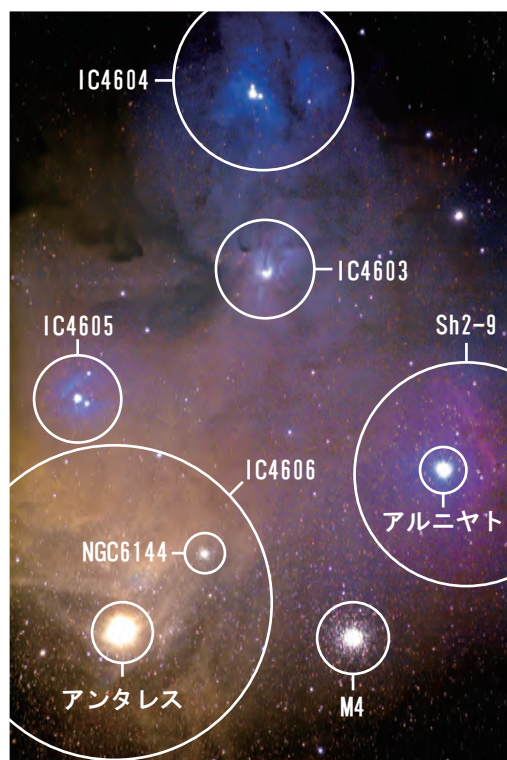


図2：アンタレス付近の星雲・星団  
(撮影：K. Imamura)